

令和6年度 大森小学校 研究・研修

1. 研究主題

主体的に学び、自分の考えを表現できる児童の育成
～算数科における確かな学力の定着をめざした授業づくり～

主題設定の理由

(1) 大森小の目指す児童の姿から

大森小学校の目指す児童の姿は、「学習の楽しさを知り、自ら学ぶ子」である。児童自身が、学習の楽しさを知ることは、「分かった」「できるようになった」と実感できることから始まると考える。そのためには、基礎基本の学力の定着と、自分の考えをもち表現できる児童を育成するための授業改善をする必要がある。本校児童は、自分の考えをもちたり相手に伝えたりすることが課題である。算数的な見方・考え方を働かせながら順序立てて説明する力を育むことで、主体的に学び、自分の考えを表現できる児童が育成できるのではないかと考え、主題を設定した。

(2) 本校の児童の実態

本校は、印西市の北部に位置し、田園と昔からの商店や木下街道に面した歴史がある地域である。全校児童176名の学校である。児童は、明るく素直な児童が多い。単学級であるため、縦割り活動などの異学年での活動を充実させており、楽しく過ごしている。

学力調査の結果から、算数科の「思考・判断・表現」において、全国平均との差が顕著に見られた。それは、「知識・技能」の力が定着していないためと考えられる。そこで、基礎学力の定着に向けて、算数科の学習を通し、既習事項等の根拠をもって自分の考えを表現する力を育てていきたいと考えた。

2. 研究の目標

算数科において、確かな学力の定着を目指した授業づくりを通して、主体的に学び、自分の考えを表現できる児童を育てる指導の方法を研究する。

3. 研究仮説

仮説1 ～主体的な学びへ向かう手立てとして～

導入で学習課題を視覚的（視覚化）に分かりやすく示し、課題を明確にして（焦点化）授業を展開していけば、児童が主体的に学習に取り組むことができるだろう。

〈手立て①（視覚化）児童が課題を把握するための導入の工夫〉

（導入の工夫）

- ・児童の実態に即した素材を開発し、提示方法を工夫する。
（素材を図に表すなどイメージさせる。）
- ・ICTの活用を工夫する。
（授業の流れの共通理解）
- ・低・中・高学年毎に学習の流れを掲示し、児童が授業の流れを把握する。

〈手立て②（焦点化）何を指導するかを明確にする。〉

- ・児童が問題を解決するための見通しをもち、予想できるように導入を工夫する。
- ・目的にあった思考ツールを選択し、活用する。

仮説2 ～自分の考えを表現するための手立てとして～

既習事項をもとに、学習課題を解決することによって、自分の考えもったり、友だちに分かりやすく伝えたりすることができるだろう。

〈手立て③（共有化）〉

（数学的な表現の確認）

- ・既習事項の確認（事前テストで既習事項の定着度を確認・導入時に確認）

(表現方法の工夫)

- ・ノートのとめ方やICT機器の使い方を指導。(自力解決の時間を確保する。)
- ・既習事項などをもとに、自分の言葉で説明を書く時間を確保する。
- ・ペア、グループでの話し合いを工夫する。
低学年：ペア学習 中・高学年：ペア・グループ学習(発達段階に合わせて)
- ・ホワイトボード、ICT機器を活用する。
- ・発表や発言等を板書やホワイトボード・ICT機器に表現し、思考の可視化を図る。
- ・授業のまとめを児童が自分の言葉で書くための工夫。(何を学んだか。何が分かったか。)

(研究における定義づけ)

- 「主体的に学ぶ」とは、学習課題を正確に把握し、見通しをもって学習に取り組むこと。
- 「自分の考えを表現する」とは、根拠をもって自分の考えをノートやICT機器に表現し、友達に伝えること。
- 「確かな学力の定着」とは、学習指導要領の中にある「知識・技能だけではなく、学ぶ意欲や主体的に判断しよりよく問題解決する」とする。
- ユニバーサルデザインの視点を生かした授業作りを行う。本校では以下の視点を生かし、授業作りを行う。
 - ・視覚化→板書や話し合いの可視化といった情報伝達の工夫をすること。
 - ・焦点化→1時間の授業で何を教えるかしぼること。
内容をフォーカスし、構成をシンプルにすること。
 - ・共有化→①情報を整えて同じ土俵に立たせること。(既習事項の確認や復習)
②学び合い、考えを伝え合い、教え合ったりすること。(ペアやグループでの話し合い)

3. 検証計画

観点	視点	方法
知識・技能	・基礎学力の向上 ・既習事項の理解 ・自力解決時の行動 ・練習問題でのチェック	テスト テスト ノート・ICT ノート・ICT
思考力・判断力・表現力	・表現方法の工夫 ・話し合いへの参加	ノート・ICT 授業観察
学びに向かう力・人間性	・アンケート(児童) ・学習への関心・意欲 ・UDの視点を生かした授業	児童の意識調査 ノートへの感想

4. 研究の内容と方法

- (1) 理論研究
○先行文献や実践校の資料を活用し、算数科の学習について研究を行う。
- (2) 実践研究
○児童のつまずきを想定して、授業計画を立てる。(実態把握)
○児童に学習習慣が身につくよう実践する。(授業と家庭学習との両輪)
○授業改善を図るため、問題提示や話し合いの仕方などについて工夫する。
○ユニバーサルデザインの視点を生かして授業実践を行う。

5. 目指す児童の姿

- 学び合う楽しさを知り、できた達成感やわかる喜びなどの学びの手応えを感じ取ることで、主体的に算数科の学習に取り組もうとする児童(知識や技能、学びに向かう力・人間性)
- 数学的な表現を用いて、自分の考えをわかりやすく表現し、話し合いを通してよりよい考えに高めることができる児童(思考力・判断力・表現力)

6. 研究組織

